

【新学術領域研究（研究領域提案型）】

人文・社会系



研究領域名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究

筑波大学・人文社会系・教授

やまだ しげお
山田 重郎

研究課題番号：18H05443 研究者番号：30323223

【本領域の目的】

古代西アジアでは、人類史上初めて都市型社会が生まれ、都市を中心に地域の在り方が決定付けられる社会構造が広域に形成された。西アジアの都市遺構は、豊富な考古学的資料と保存性の高い媒体（粘土板）に書かれた多くの文字史料によって、都市文明の発生とその古代における変容に関して、大量のデータを提供する。本領域は、人類の都市との関わりの原点であり、都市を巡る濃密な歴史的経験である古代西アジア都市の諸相について、その発生のプロセス、景観と社会的機能の変遷と多様性、環境との相互影響関係を、考古学、文献学、自然科学の学際的連携によって解明する。さらに「都市とは何か」という命題を、西アジアの隣接地域、さらには、後代の西アジア都市の諸相も射程に収めて考察することで、古代西アジア都市の個性を浮き彫りにし、その後代への影響を明らかにすると同時に、現代の都市主導型文明のサステナブルな将来に向けて有用な文明論を提示する。

【本領域の内容】

西アジアにおける都市の諸相を学際的方法で、通時的・共時的に研究するために、A01「都市文明への胎動」、A02「古代西アジア都市の景観と構造」、B01「西アジアの環境と資源」、C01「中世～現代の西アジア都市」の四つの研究項目を設定する。研究項目A01とA02は、前4千年紀末の南メソポタミアにおける都市の誕生に先立って、西アジア各地で都市文明に含まれる諸要素が断片的に出現していく現象を考古学的に解明し（A01）、その後のメソポタミアにおける都市文明の誕生を経て、西アジア及びエジプト

において進展した3000年にわたる都市化の諸相を考古学と文献学の協働により研究する（A02）。研究項目B01は、西アジア都市文明を育んだ環境と資源を地球科学的・物質化学的方法で分析し、都市文明の発生と変容に環境がどのような影響を与えたのかを考究して、領域全体の底上げに貢献する。研究項目C01は、A群の扱う古代の都市文明を受けて、中世から現代に西アジア都市の伝統がどのように継続し、どのように変容したかを解明し、現代の西アジア都市の諸相や社会的課題を分析する。こうした諸項目を公募研究によって補足し、領域全体として西アジア都市の諸相を多角的・通時的に把握した上で、総括班「西アジア文明論（X00）」がハブとなって、全ての研究項目が協働して、古代西アジア都市文明の特徴と後代への影響を歴史的・社会的・文化的に評価し、都市・人間社会・環境の相互関係、都市の類型、といった問題を総合的に論ずる。

【期待される成果と意義】

古代西アジア都市文明の歴史的展開に関して、最新の研究成果を踏まえ、古代西アジア各地の多様な都市の姿を、時空間の比較格子の中に捕捉した「総論」として提示する。また、古代西アジア都市の諸相を後代の都市と対比し、古代から近現代までの西アジア都市の姿を通時的に把握する。その上で、「都市の本質」に関する包括的理解を目指し、現代の都市主導型文明のサステナブルな将来に向けて有用な文明論を提示する。

【キーワード】

古代西アジア都市文明：西アジアに発生・発展した人類最古の都市文明。

【研究期間と研究経費】

平成30年度～34年度
694,500千円

【ホームページ等】

<http://rwwasia.hass.tsukuba.ac.jp/city/>

